

石燈籠

春日大社には、日本でも最大規模の、最も良く保存されている石燈籠群があります。春日大社の参道には約 2,000 基の石燈籠が並んでおり、そのうちもっとも古いものは平安時代(794-1185)に置かれたもので、春日大社本殿から若宮神社への小道にあります。

これら石燈籠は、何世紀にもわたり、貴族や僧侶、武士など資金的に裕福な人によって奉納されました。

江戸時代（1603～1867）になると裕福な商人が現れ、彼らも奉納を始めます。さらに、江戸時代の終わりには普通の人たちもお金を出し合って奉納をするようになりました。二之鳥居の右側に置かれている有名な燈籠は、800 人ものグループが奉納したものです。

江戸時代までは、毎夜すべての石燈籠に火が点され、一晩に 280 リットルの油を消費しました。今日では、2,000 近くある石燈籠のすべてに火が点されるのは、2 月と 8 月の年に 2 回だけです。